

様 式 C - 7 - 1

## 平成 27 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研究種目名 基盤研究(A) (一般) 4. 研究期間 平成 27 年度～平成 30 年度

5. 課題番号 

1	5	H	0	1	7	6	3
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 人が生育する限界の環境に於ける発育発達(生活技術の発達を含む)と成熟の総合的研究

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 1 1 4 0 4 6	オオサワ セイジ 大澤 清二	人間生活文化研究所	所長

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
5 0 7 6 0 8 5 7	ニモンジヤ シュウ 二文字屋 脩	京都文教大学・公私立大学の部局等	教務補佐
3 0 2 5 5 1 7 9	ナカニシ ジユン 中西 純	国際武道大学・体育学部	教授

## 9. 研究実績の概要

本研究は以下のA～Gに関する生育環境と発育発達に関する総合的評価を行う。  
 A. アンダマン海を漂海し原始の生活をするモーケン、B. 20年前に移動・狩猟採集生活から定住生活に移行したタイのムラブリ、C. 17世紀にチベットからネパールに移住した牧畜・農耕民ポータリア、D. ヒマラヤ高地のシェルバ、E. 外部世界から離れたミャンマー・カヤー州山地のバダウン（カヤン）、F. 都市的世界における特殊環境の上座仏教の少年僧、G. 文明化され情報化が進んだ世界の日本、ミャンマー、タイなどの都市人。調査項目は、生育環境、形態発育、機能発達項目、基礎運動能力、性成熟項目。  
 本年度は6～7月：詳細な研究年間計画を作成。調査マニュアル、調査票の準備。Aモーケン、Bムラブリ、Eバダウン（カヤン）、F少年僧の各研究班は既存データの確認と渡航準備。8～9月：Bムラブリ研究班は現地協力者の研修と第1回調査を実施（タイ、ナーン県）。収集データを整理、確認し、入力を開始。F少年僧の研究班は現地協力者の研修を実施（ミャンマー、モン州）。10月：8～9月にかけて実施したBムラブリ第1回調査の検討会を行い、修正点をあげ次回調査に備えた。11月：Bムラブリの研究班は第2回調査。一部の収集データの解析で調査の方向を確認した。12～1月：Aモーケン（ミャンマー、タニンダーリー管区）、Eバダウン（カヤン）（ミャンマー、カヤー州）の集中調査を実施。2～3月：Aモーケン、Eバダウン（カヤン）は補充調査。3月には初年度を総括する検討会を行い次年度調査計画を立案した。経理関係書類を整理し、日本発育発達学会にて研究成果の報告をした。

## 10. キーワード

- |           |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|
| (1) 狩猟採集民 | (2) 身体発育 | (3) 身体発達 | (4) 生活技術 |
| (5) 限界的環境 | (6)      | (7)      | (8)      |

## 11. 現在までの進捗状況

(区分) (2) おおむね順調に進展している。

(理由)

タイ、ミャンマーにおける研究対象については順調に進展しているが、ネパールにおける研究対象（ポーティア族、シェルパ族）の調査の一部については次のような理由から、平成28年度に実施することとなった。  
 (理由) ネパールにおいて2016年4月下旬にカトマンズを含む広範囲の地域で発生した大地震とその余震の甚大な影響により現地活動が妨げられた。現地協力者らとは連絡すら取れない事情が発生し、調査が大幅に遅れた（復興現場に研究者が入り、調査、研究をする状況ではなかった）。

## 12. 今後の研究の推進方策

(今後の推進方策)

ネパールにおいて2016年4月下旬にカトマンズを含む広範囲の地域で発生した大地震とその余震の甚大な影響により現地活動が妨げられた。現地協力者らとは連絡すら取れない事情が発生し、調査が大幅に遅れた（復興現場に研究者が入り、調査、研究をする状況ではなかった）。こうした理由から、平成27年度計画していたネパールでのポーティア族の調査準備、シェルパ族の大規模調査を本年度に実施する予定である。

## 13. 研究発表(平成27年度の研究成果)

(雑誌論文) 計(1)件/うち査読付論文 計(0)件/うち国際共著論文 計(0)件/うちオープンアクセス 計(0)件

著者名		論文標題【掲載確定】				
大澤清二		人類発達史からみた身体発達研究の課題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
子どもと発達	無	14	2016	1-9	-	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)						
なし						
オープンアクセス						
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難						

(学会発表) 計(5)件/うち招待講演 計(0)件/うち国際学会 計(0)件

発表者名		発表標題	
大澤清二、下田敦子、中西純、アチャウシャ、ピニタライ、タンナイン、ブルクルータワットチャイサンカピタツ		人類発達史から見た子どもの身体発達 - 狩猟採集民から現代の子どもへ -	
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学	

発表者名		発表標題	
アチャウシャ、ピニタライ、ティムシナアラティ、バツタライニシル、中西純、下田敦子、大澤清二		ネパールにおけるカースト・民族別の幼児の生活技術と発達過程	
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学	

発表者名	発表標題	
中西純、アチャウシャ、下田敦子、大澤清二	ベジタリアンの食物摂取内容と発育に関する調査 - ネパール連邦民主共和国の上・中位カーストを対象として	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学

発表者名	発表標題	
下田敦子、大澤清二、タンナイン、ジョネイ、ネーミョールイン	生涯にわたる首輪装着がカヤン女性の頸長をどのように変えるか - 幼児期から80歳までのカヤン女性の長径データの分析から -	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学

発表者名	発表標題	
烏雲格日勒、大澤清二	内モンゴル東部地域における中学生のヘルス・リテラシーと身体活動レベルの関連	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学

(図書) 計(1)件

著者名	出版社	
大澤清二	大妻女子大学人間生活文化研究所	
書名	発行年	総ページ数
海外学術調査シリーズNo.1 タイの僧院における少年僧の生活と身体活動	2016	53

(課題番号: 15H01763)

(注)・印刷に当たっては、A4判(縦長)・両面印刷すること。

(4/5)

## 14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

## 15. 科研費を使用して開催した国際研究集会

(国際研究集会) 計(0)件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

## 16. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

(1) 国際共同研究: -

## 17. 備考

--